



ARCHITREND
Modelio

プレゼン編

本書は、作成したプランのパース画像の作成と、プレゼンボードの作成方法について操作内容を解説したテキストです。

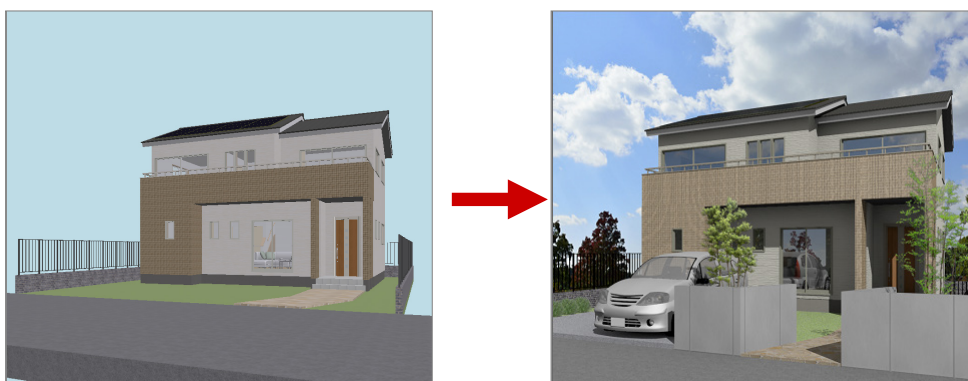
1. パース画像の作成	1
1-1 外構や照明部品の入力	1
1-2 背景や影の設定	6
1-3 視点の設定	7
1-4 レンダリングの実行	11
2. プレゼンボードの作成	14
完成図	14
2-1 画像の準備	14
2-2 プレゼンボードの新規作成	17
2-3 ボードの確認	18
2-4 プレゼン・カタログ画像の配置	20
2-5 カタログ画像の編集	22
2-6 ボードの編集	24
2-7 ボードの印刷	25

1

パース画像の作成

外構を入力して、外観のパース画像を作成しましょう。

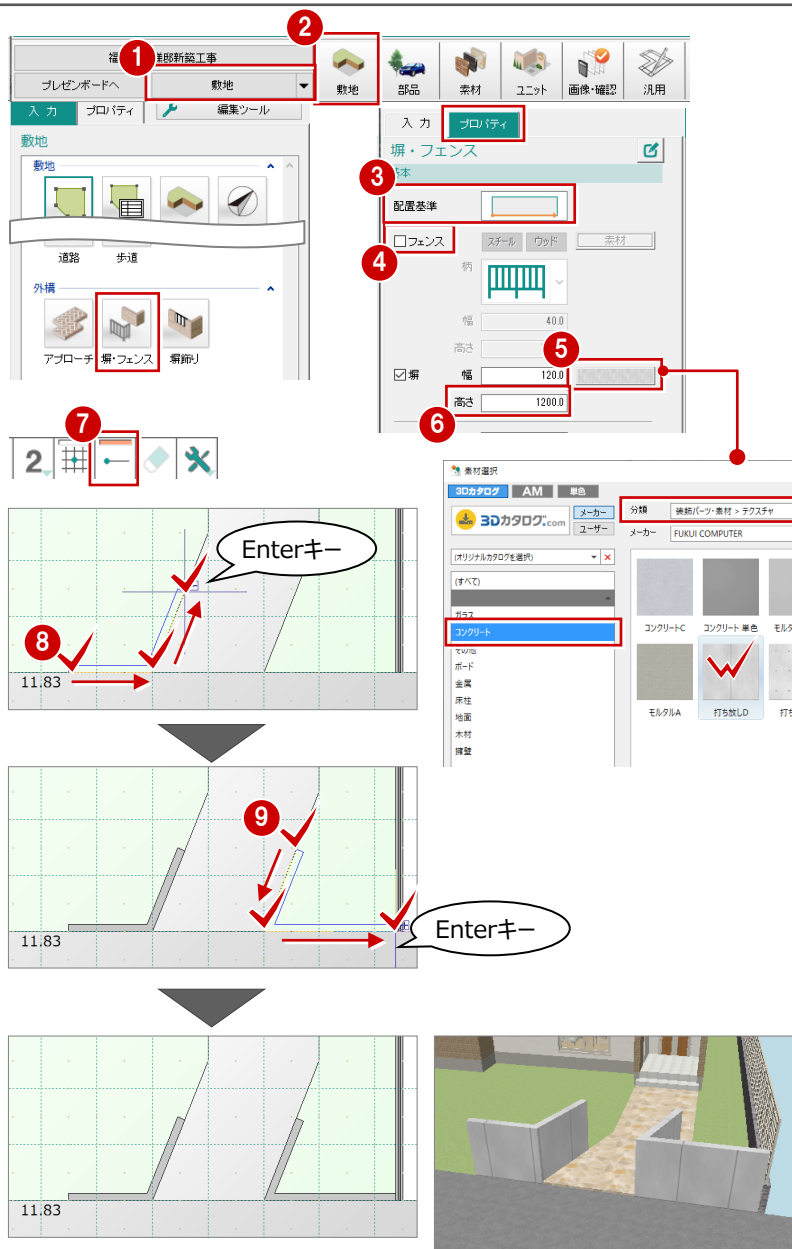
※ プラン作成編で作成したデータ、もしくはサンプルデータ「プラン作成編（完成）.mdlz」を使用します。



1-1 外構や照明部品の入力

門塀を入力する

- 敷地を開きます。
- 「敷地」の「塀・フェンス」をクリックします。
- 「プロパティ」タブで「配置基準」を右に変更します。
- 「フェンス」が OFF であることを確認します。
- 素材を変更します。
「分類」を「装飾パーツ・素材」>「テクスチャ」、製品を「コンクリート」に変更し、「打ち放し D」をダブルクリックします。
- 「高さ」を「1200」に変更します。
- 「要素ピック」を ON にします。
- 塀の入力点を順にクリックします。
道路のライン上の任意の点、道路とアプローチの交点、アプローチ上の任意の点をクリックして、最後に Enter キーを押します。
- 同様に、もう 1 か所入力します。



駐車場を入力する

汎用シンボル（水平面）を使って、駐車スペースを表現してみましょう。

- 1 「汎用」の「水平面」をクリックします。
自動的に「プロパティ」タブが開きます。

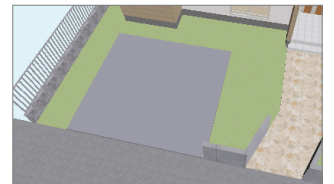
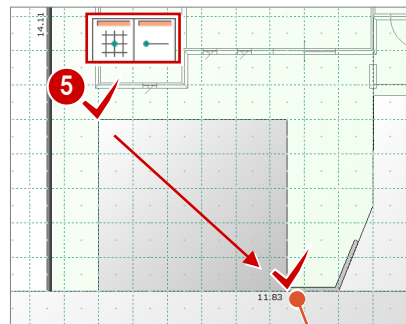
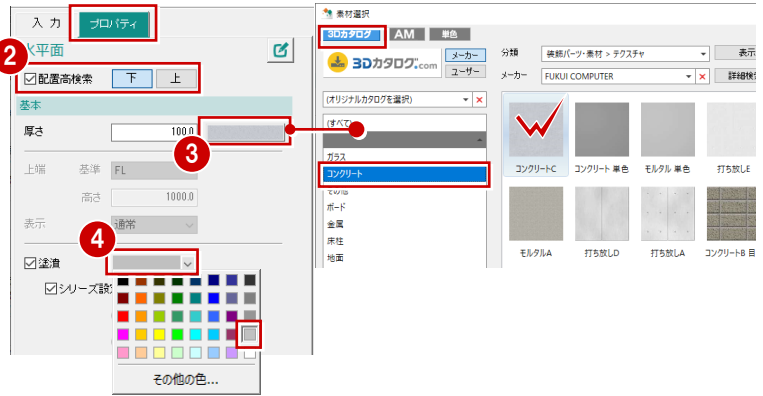


- 2 「プロパティ」タブの「配置高検索」「下」がONであることを確認します。

- 3 水平面の素材と塗潰を以下のように変更します。

3D カタログ：ON
分類：装飾パーツ・素材>テクスチャ
製品：コンクリート
品名：コンクリートC

- 4 塗潰の色を「25%灰色」に変更します。
- 5 始点、対角点をクリックして、駐車スペースの範囲を指定します。



Shiftキーを押しながら2点目をクリックすると、多角形入力になります。

配置高検索

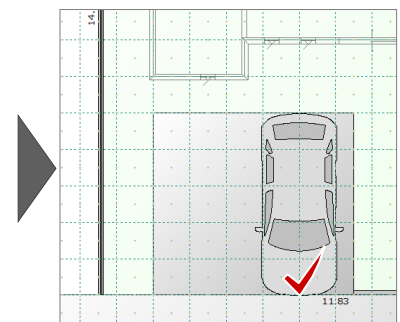
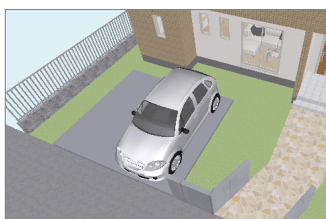
「下」がONの場合、検索されるデータは次のとおりです。

検索データ	下端の高さ基準
出窓壁・バルコニー	道・部屋・床面
外構	FL
その他	1階：GL 1階以外：下階軒高

※ 「上」がONの場合、高さ基準は「天井面」となります。部屋外に入力されたシンボルは軒高の位置に入力されます。

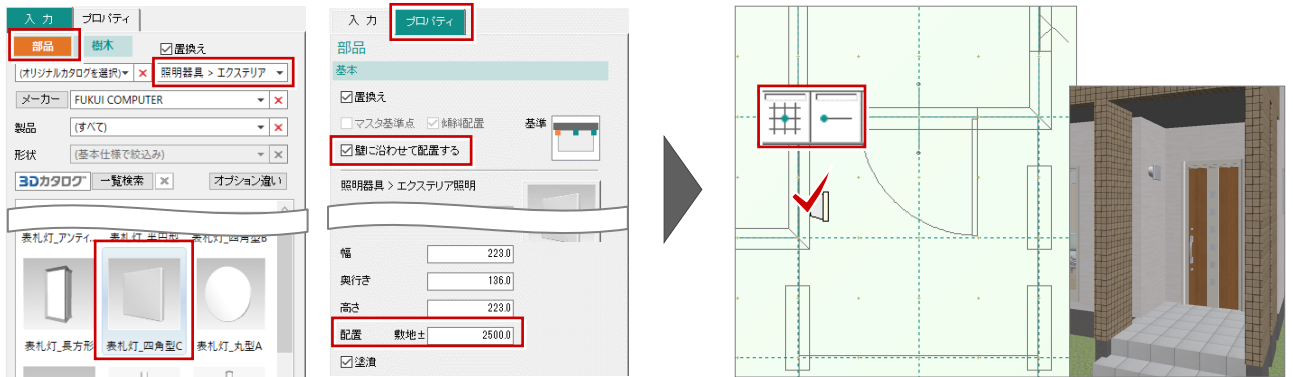
自動車を入力する

「コンパクトカー」を入力してみましょう。（装飾パーツ・素材>自動車・バイク・自転車、コンパクトカー）
⇒ 部品の入力については、「プラン作成編」P.26 参照



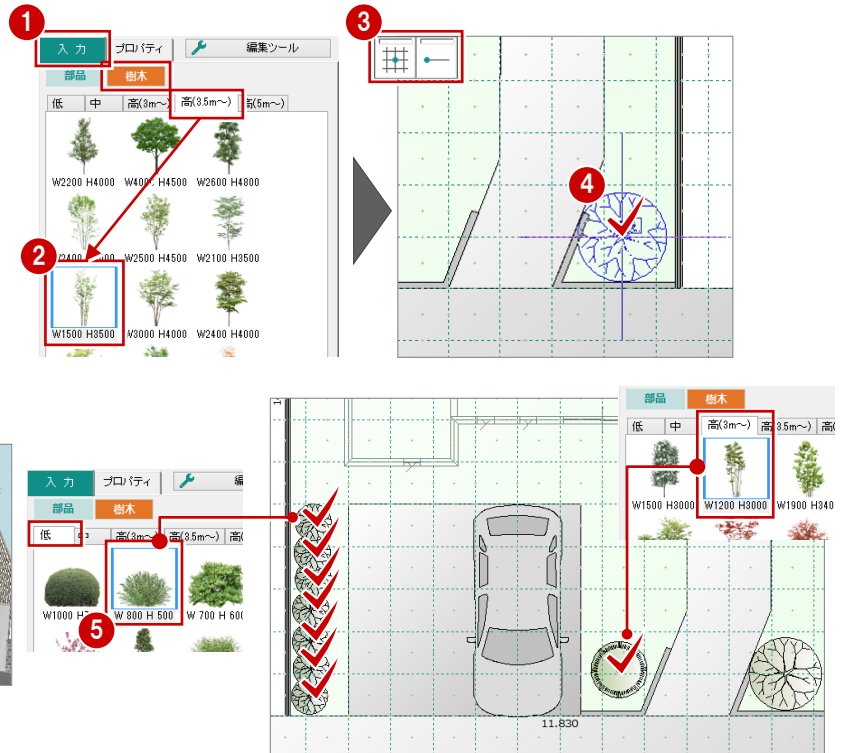
玄関に照明を入力する

「表札灯」を入力しましょう。(照明器具>エクステリア照明、表札灯_四角型C)



樹木を入力する

- ① 「入力」タブの「樹木」をクリックします。
- ② 「高 (3.5m〜)」タブから「W1500 H3500」を選びます。
- ③ グリッドピック、要素ピックが OFF であることを確認します。
- ④ 樹木の配置位置をクリックします。
- ⑤ 同様に残りの樹木を入力します。

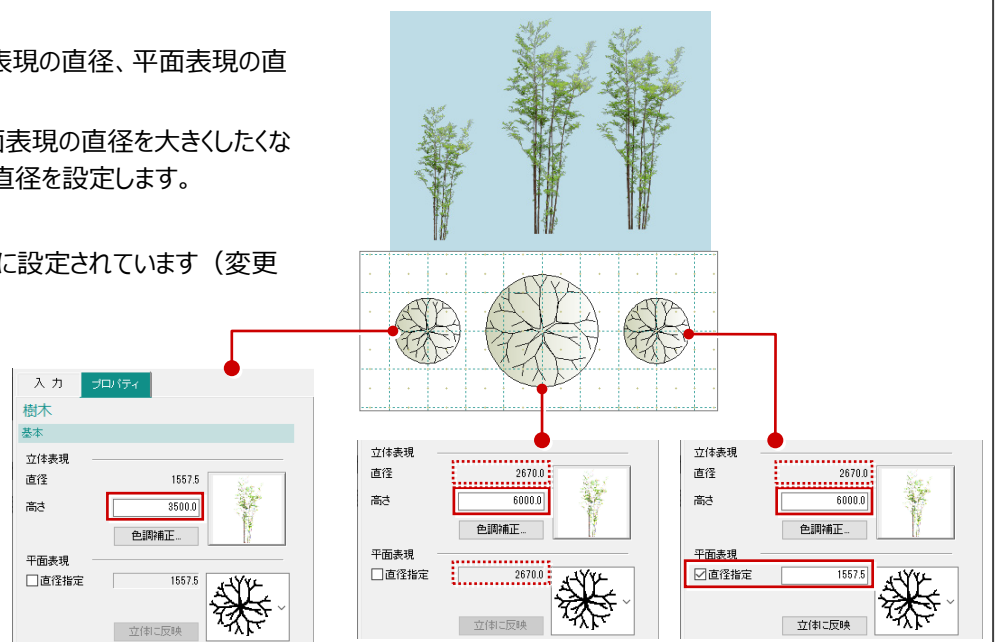


樹木の高さを変更する

樹木の「高さ」を変更すると、立体表現の直径、平面表現の直径が変更されます。

例えば、樹木を高くしたときに、平面表現の直径を大きくしたくないときは、「直径指定」をONにして直径を設定します。

※ 高さとの比率は、樹木ごとに設定されています (変更不可)。

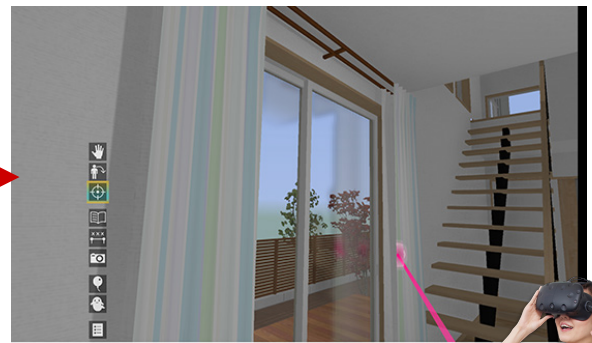
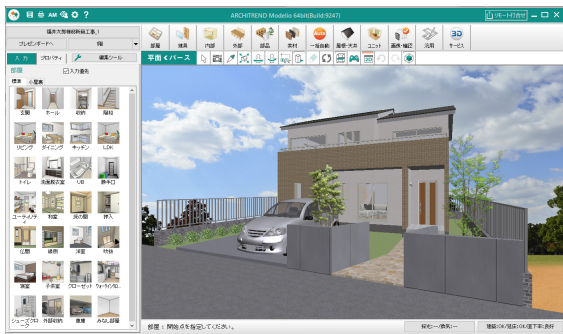


補足

Modelio データを ARCHITREND VR で使用するには

ARCHITREND VR（以降、ATVR）は、バーチャルリアリティ対応のヘッドマウントディスプレイを使って、Modelioでプランニングした建物、室内を確認できるバーチャル空間体感システムです。

ATVRのデータは、Modelioのプランデータから作成できます。



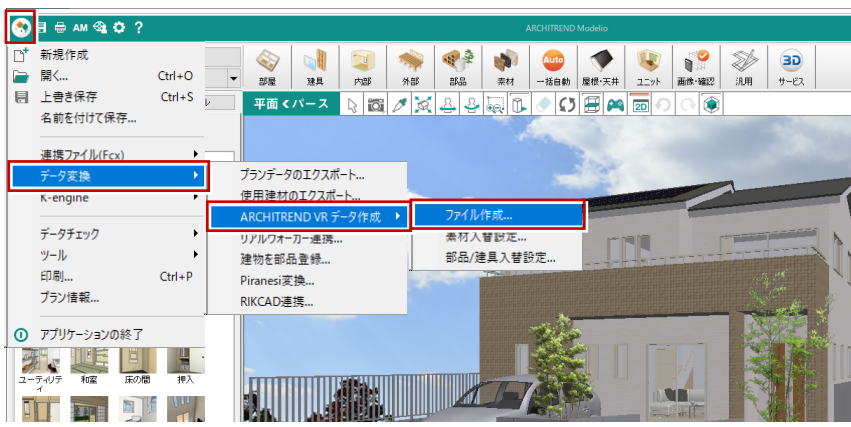
- プランの作成
 - ・視点の設定
 - ・背景・光源の設定
- 部品・建具の入れ替え候補を設定
- 素材の入れ替え候補を設定（3Dカタログマスタ）
- VRデータの作成

- 外観や室内空間の体感
- ドアやサッシの開き勝手を確認
- 照明ON/OFFで照明の位置や調光イメージを確認
- 朝・昼・夜のシーン切り替え
- 素材の張り替え
- ドアやサッシ、住設機器の入れ替え など

■ VRデータの作成

ATVRのデータは、Modelioの「処理メニュー」から「データ変換」の「ARCHITREND VRデータ作成：ファイル作成」で作成します。

ATVRで素材、部品、建具の入れ替えをおこなうには、あらかじめModelio側で設定をおこなってからATVRデータを作成します。



■ 視点の連携

視点は、Modelioで登録した内部視点・外部視点がATVRの視点一覧に連携します。視点が未登録の場合は、「HOME」の視点を出力します。



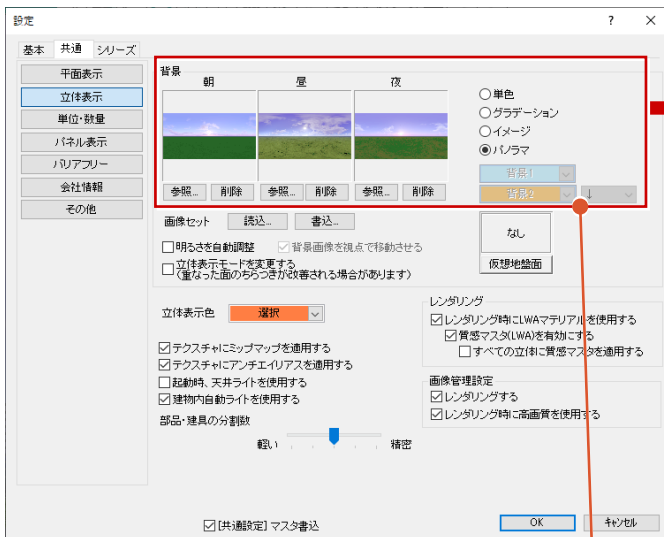
視点が未登録の場合は、「HOME」のみ出力します。



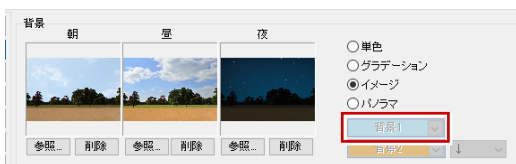
【ATVRの視点一覧】

■ 背景・光源の連携

Modelioの「共通」タブの「立体表示」で背景を「イメージ」以外に設定している場合は、ATVRの背景（朝・昼・夜）に連携します。



背景を「イメージ」で設定した場合や、「パノラマ」などで画像が割り当たっていない場合は、単色「背景1」の色が背景として連携します。



立体データ内にある照明（部品光源）が連携し、夜のシーンでは照明が点灯します。

1-2 背景や影の設定

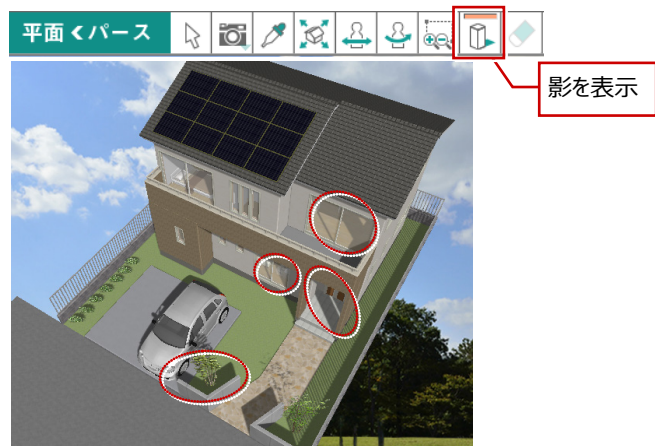
背景を変更する

「初期設定」の「共通」タブにある「立体表示」で変更します。ここでは「イメージ」に変更します。



立体に影を付ける

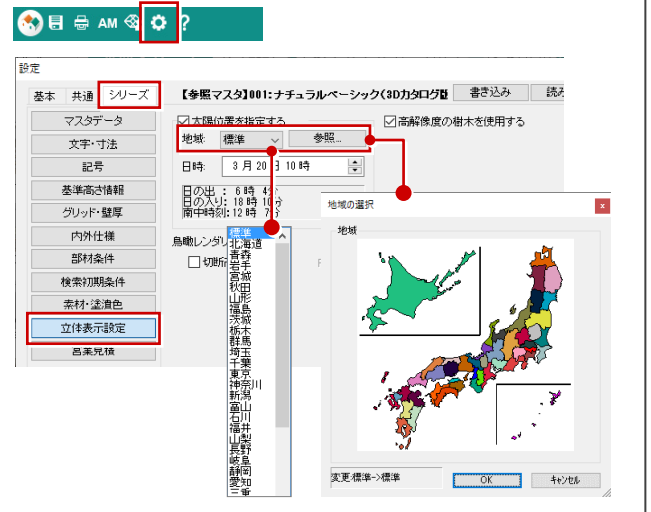
3D ツールバーの「影を表示」を ON にします。建物に影が作成され、室内には日が差し込んでいることを確認できます。



太陽の位置

「影を表示」をONにして影を付けたときの太陽の位置は、「初期設定」の「シリーズ」タブにある「立体表示設定」で地域、もしくは日時を指定して設定することができます。

- ※ 「影を表示」がONのとき、「太陽位置を指定する」をOFFにすることはできません。
- ※ 「影を表示」は、夜のシーンのときには使用できません。
⇒ シーンについては、P.10 参照
- ※ この設定は、レンダリング時の太陽位置の初期値となります。



1-3 視点の設定

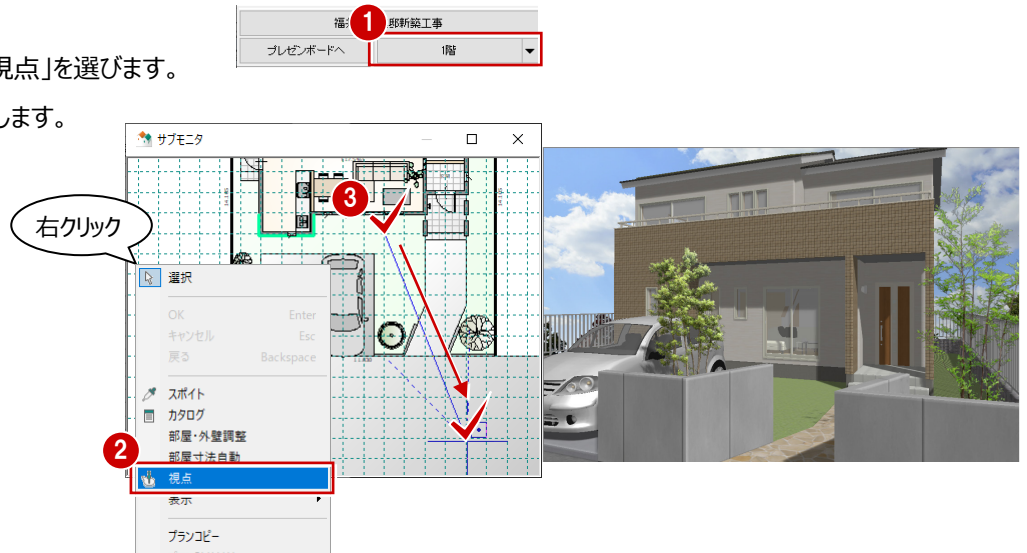
外観パースで使用するアングルを決めます。

サブモニタが表示されていない場合は、「モニター表示/非表示」をクリックして、サブモニタに平面を表示します。



外観の視点を設定する

- 1階を表示します。
- サブモニタで右クリックして、「視点」を選びます。
- 注視点、視点位置をクリックします。



- 3D ツールバーの「視点関連コマンド」をクリックします。カメラパネルが表示されます。
- 視野角を「外観向け」に変更します。視野角が 45 度から 60 度になります。



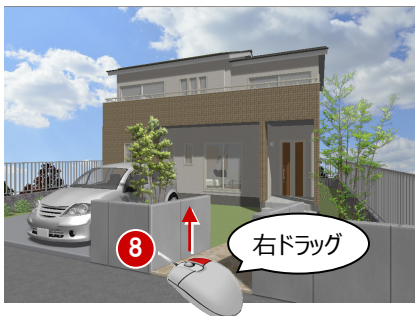
- マウスの右ドラッグで視点位置を下げ、若干見上げたようなアングルに変更します。
- ⇒ マウス操作については、「基本操作編」 P.17 参照

7 「あおり補正」を ON にします。

「あおり補正」を ON にすると、建物の縦のラインが垂直になります。



8 9 マウス操作で若干見上げたようなアングルに変更します。



あおり補正時のマウス操作について

「あおり補正」がONとOFFでは、マウス操作による立体の回転・移動の動きが異なります。

「あおり補正」がOFFの場合は建物を自由に回転できますが、ONの場合では躯体のラインを常に垂直に保った状態でアングルを調整します。

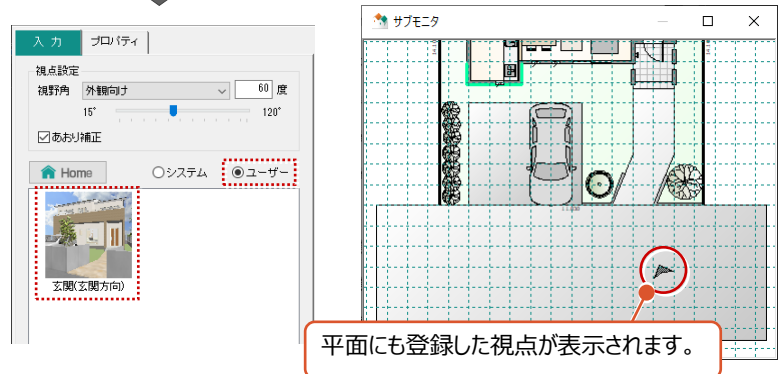
視点を登録する

外観パースで使用するアングルを決めます。

- 1 入力パネルの「視点追加」をクリックします。
- 2 「外部」タブをクリックします。
- 3 ここでは「視点属性」を「玄関方向」、名称を「玄関」に設定して、「登録」をクリックします。



追加した視点のサムネイルが「ユーザー」に登録されます。

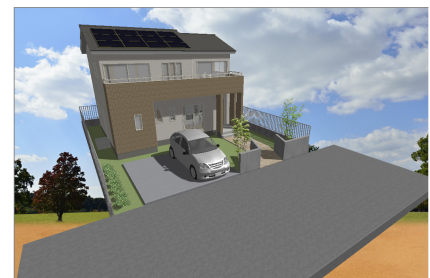


平面にも登録した視点が表示されます。

視点を呼び出す

登録した視点を呼び出すには、サムネイルの画像をクリック、または平面に表示されている視点をクリックします。

登録した視点を削除するには、「視点削除」をクリック、または平面の視点を削除します。

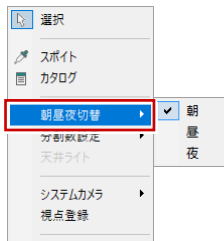


補足

シーン（朝・昼・夜）を切り替える

パース画面の背景を朝・昼・夜のシーンごとに変更することができます。

- 1 「初期設定」の「共通」タブにある「立体表示」の「朝」「昼」「夜」の「参照」で、背景画像を設定します。
- 2 パース画面のポップアップメニューから「朝昼夜切替」の「朝」「昼」「夜」で切り替えます。



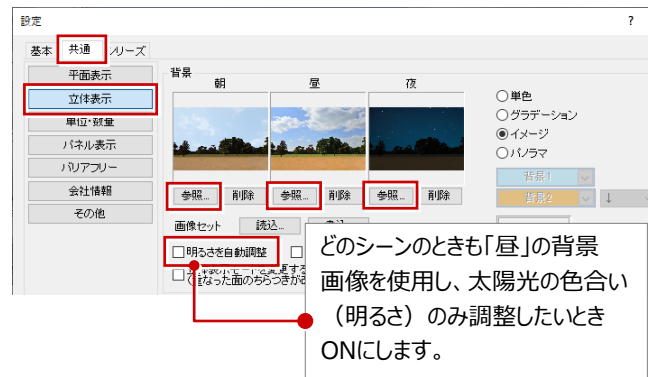
【朝】



【昼】



【夜】



1-4 レンダリングの実行

外観の画像を作成する

パースのアングルが決まったら、レンダリングを実行して外観パースの画像を作成してみましょう。

① 「画像・確認」の「レンダリング」をクリックします。

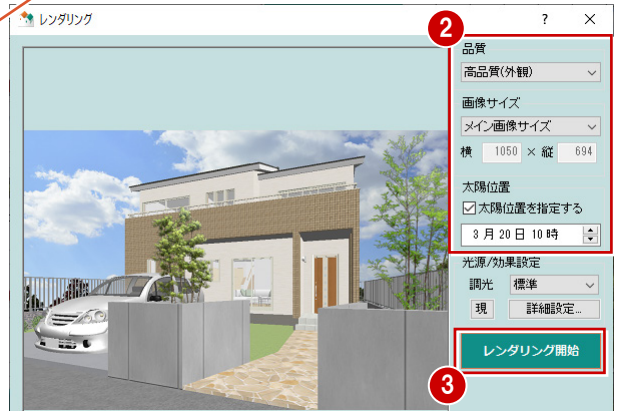
② レンダリングの条件を設定します。

品質：高品質（外観）
 画像サイズ：メイン画像サイズ
 太陽位置を指定する：ON
 日時：3月20日10時

③ 「レンダリング開始」をクリックします。
 処理が開始します。



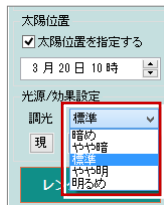
パース画面でマウスの右ボタンをダブルクリックしても「レンダリング」実行できます。



V-styleについては、P.13参照

光源の明るさを調整するには

レンダリング時の光源の明るさを調整したい場合は、「調光」を設定します。「暗め」「やや暗」「標準」「やや明」「明るめ」の中から目的の明るさに切り替えて、レンダリングを実行します。



画像サイズについて

- ・メイン画像サイズ
 基本的に現在のメイン画面のサイズをベースにして画像を作成するため、パース画面の表示のままで画像を作成できます。
- ・その他の画像サイズ（小・中・大・特大・ユーザー指定・パノラマ画像）
 画像サイズを決めて作成する場合に使用します。
 ただし、指定した画像サイズとパース画面のサイズは異なるため、パース画面の表示状態と同じ作成範囲にはなりません。
 両サイドや上下が若干切れたり、余分な範囲まで作成することがあるので注意が必要です。



【メイン画像サイズ（925×826）】 【小（800×600）】

「通常」と「高品質（外観）」の違い

レンダリングの品質には、「通常」「高品質」があり、右図のようにレンダリング結果が変わります。

品質	外観	内観	鳥瞰
通常	○	○	○
高品質（外観）	○	×	×
高品質（内観）	×	○	×
高品質（鳥瞰）	×	×	○



【通常】

全体的に均一な明るさになり、陰影の表現も均一となる。また、処理が速いので大まかなイメージ確認に向いている。



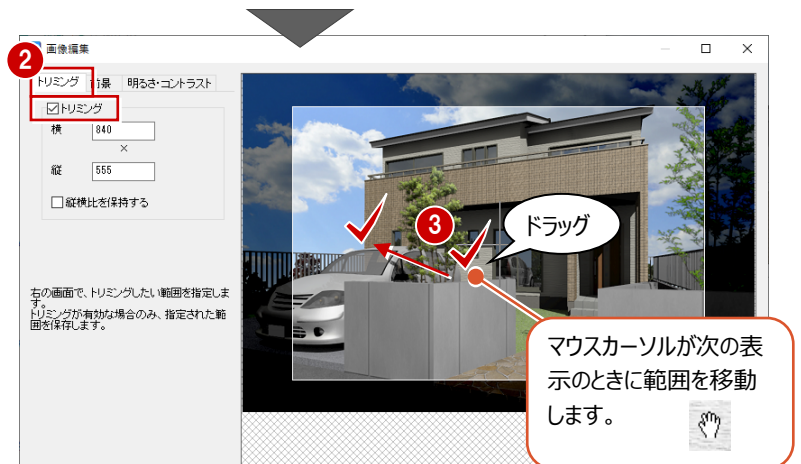
【高品質】

影になる部分と明るい部分のメリハリが付き、立体感のあるパースを作成できる。処理は「通常」よりも若干長くなる。

画像をトリミングする

レンダリングした画像において、トリミングをおこないます。

- ① 「画像編集」をクリックします。
- ② 「トリミング」をONにします。
- ③ 白枠内でドラッグして、範囲を移動します。
- ④ 白枠のライン上をドラッグして、範囲を変更します。

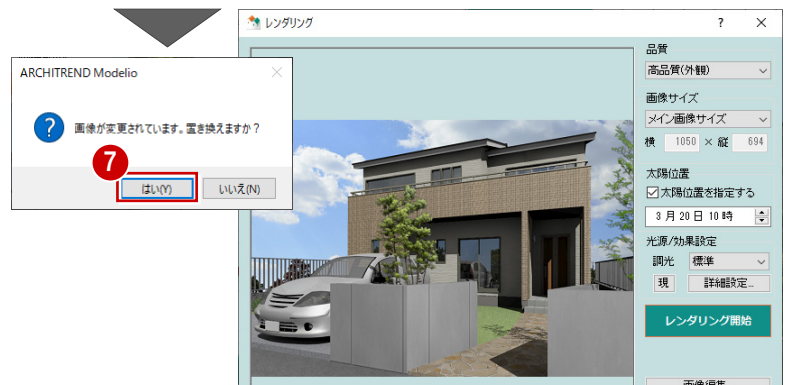


- ⑤ 編集が終わったら、「保存して終了」をクリックします。
- ⑥⑦ 確認画面で「はい」をクリックします。
「レンダリング」ダイアログにトリミング後の画像が表示されます。



前景部品・明るさ調整

前景部品の配置、画像の明るさ・コントラスト調整をおこなうことができます。



画像を保存する

作成した画像を保存します。

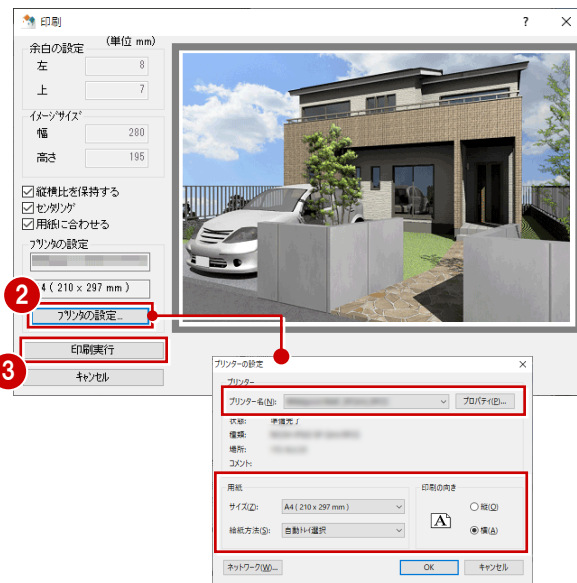
- 1 「画像保存」をクリックします。
- 2 ここでは「外観」の「玄関方向」をクリックします。
- 3 「OK」をクリックします。



画像を印刷する

- 1 「画像印刷」をクリックします。

- 2 「プリンタの設定」で、使用するプリンター名や用紙のサイズ、印刷の向きなどを設定します。
- 3 「印刷実行」をクリックします。



- 4 印刷が終わったら「閉じる」をクリックします。



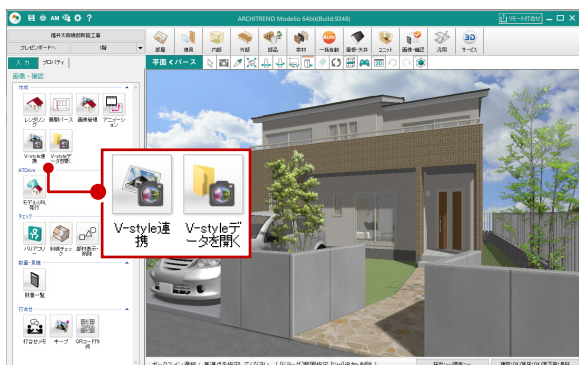
補足

V-style 連携について

「画像・確認」の「V-style連携」から、「ARCHITREND Modelio V-style」に連携して画像を作成することができます。

ARCHITREND Modelio V-styleは、Modelioで作成したモデルの情報（モデル・カメラ・光源情報など）をいかして高品質のレンダリングをおこなえます。素材入替・質感変更等により、プレゼン効果が高い画像を作成することができるオプションプログラムです。

⇒ ARCHITREND Modelio V-styleの操作については、公式ホームページ：「Modelio V-styleVer3 操作ガイド」参照



【ARCHITREND Modelio V-style】

2

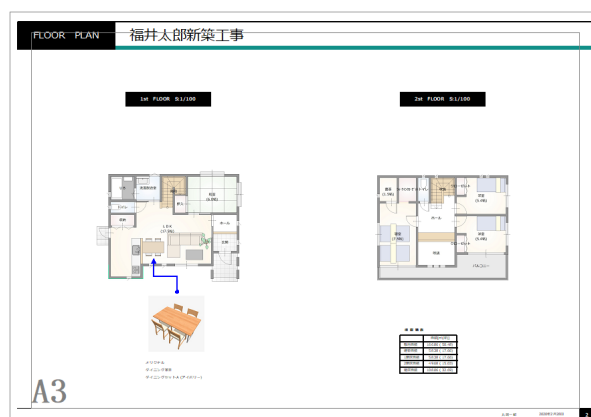
プレゼンボードの作成

完成図

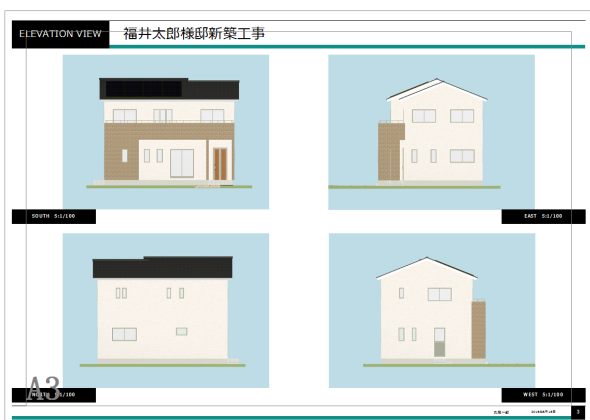
プレゼンボードで使用する平面図や立面図などの画像を作成して、テンプレートを使ってプレゼンボードを作成しましょう。



【表紙】



【平面図】



【立面パース】



【外観パース】

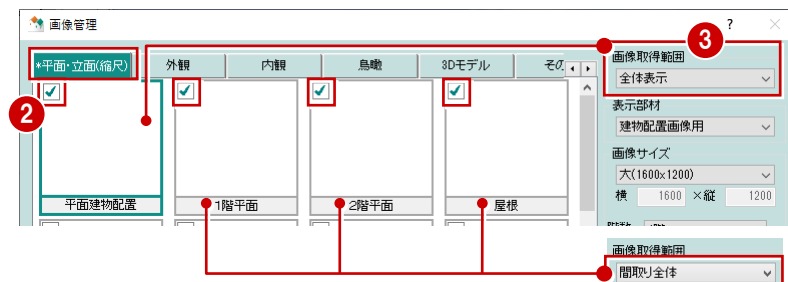
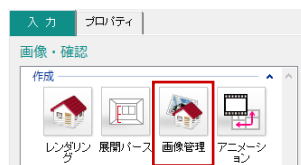
2-1 画像の準備

ボードで使用する平面や立面パースの画像を作成しましょう。

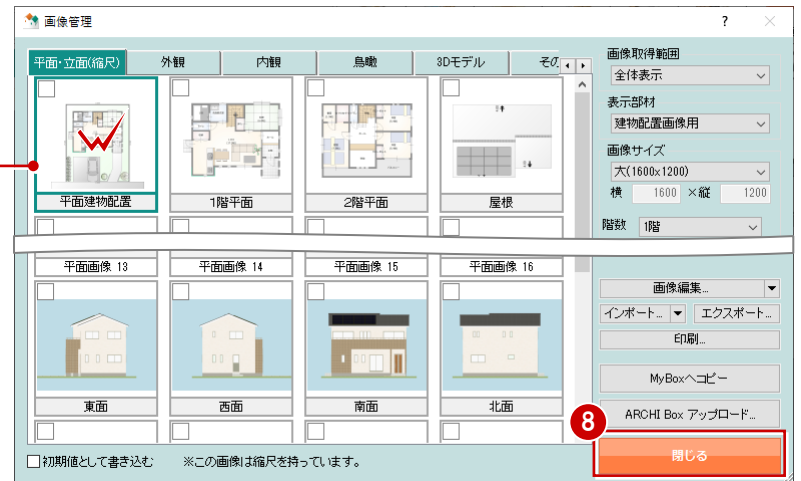
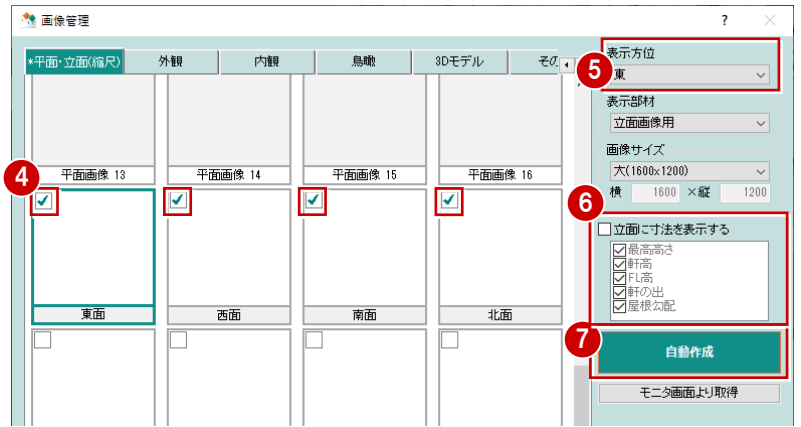
平面・立面パースの画像を作成する

- 1 「画像・確認」の「画像管理」をクリックします。
- 2 「平面・立面（縮尺）」タブで、自動作成する「平面建物配置」「1階平面」「2階平面」「屋根」をONにします。
- 3 各画像の「画像取得範囲」を確認します。

平面建物配置：全体表示
1階平面、2階平面、屋根：間取り全体



- 4 続けて、「東面」「西面」「南面」「北面」を ON にします。
- 5 各面の「表示方位」で立面パースの方位を確認します。
- 6 ここでは、4面とも「立面に寸法を表示する」を OFF にします。
- 7 「自動作成」をクリックします。画像の自動作成が開始します。
- 8 確認が終了したら、「閉じる」をクリックします。



立面パースの画像の品質

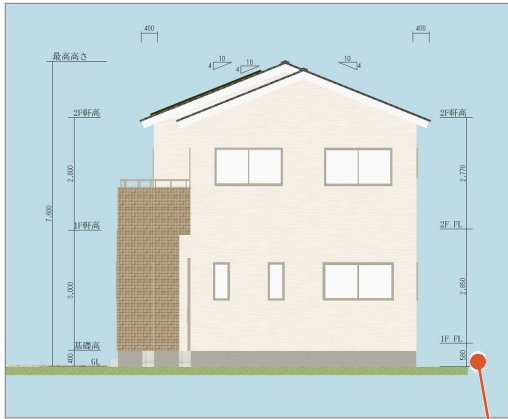
「画像管理」で自動作成する立面パースは、レンダリングされていません。

レンダリングした立面パースを作成するときは、「画像・確認」の「レンダリング」で高品質の画像を作成し保存してください。



立面画像の寸法線

「立面に寸法を表示する」をONにして表示する項目をONにすると、立面画像に寸法線が作成されます。
各方位の立面、立面（単色）、立面（白黒）、立面1～8のときに設定できます。

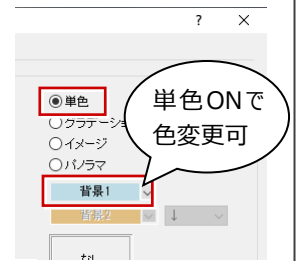


寸法の数値や文字のサイズ、
フォントはプログラム固定です。



立面パースの背景色

自動作成される立面パースの背景色は、「初期設定」の「共通」タブにある「立体表示」で設定されている「背景1」の色で作成されます。



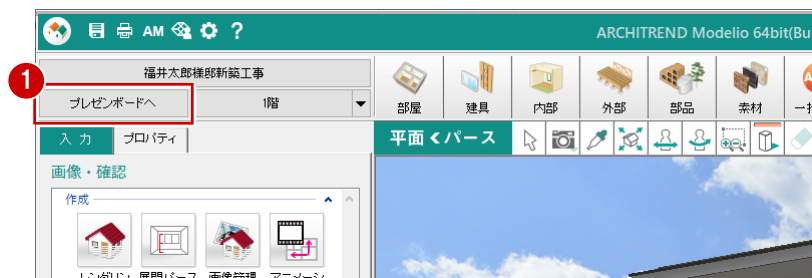
2-2 プレゼンボードの新規作成

作成した画像、入力されている建材（建具、素材、部品）をもとに、プレゼンボードを作成してみましょう。

プレゼンボードに切り替える

- 1 「プレゼンボードへ」をクリックします。

※ 初めてボードを作成するときは、「一括プレゼンボード作成」ダイアログが開きます。



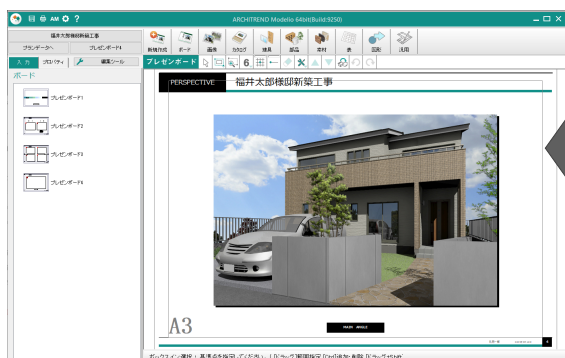
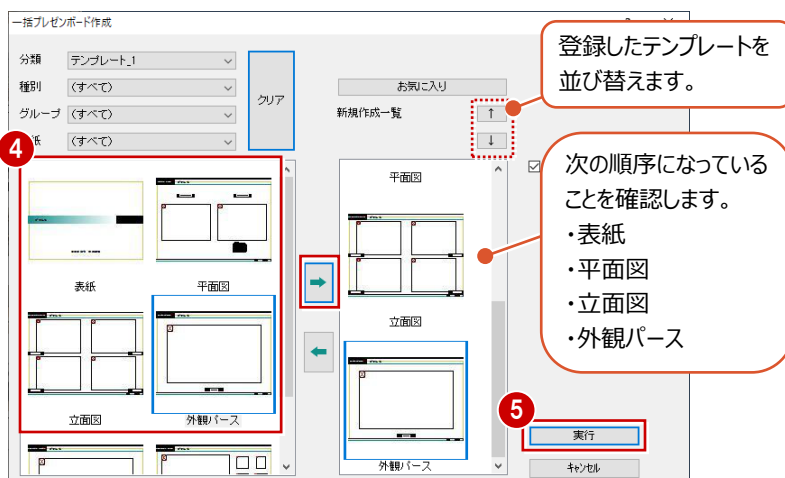
テンプレートを指定する

- 1 ここでは、分類を「テンプレート_1」に設定します。
- 2 3 一覧から「表紙」のテンプレートを選び、「→」をクリックして登録します。



- 4 同様に、「平面図」「立面図」「外観パース」を登録します。

- 5 使用するテンプレートをすべてセットしたら、「実行」をクリックします。

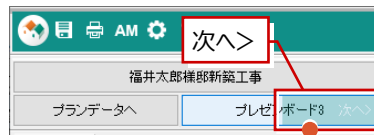
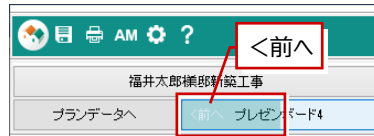
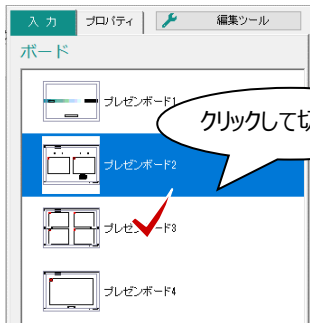


2-3 ボードの確認

自動作成されたボードを確認して、ボードの名称を変更しましょう。

ボードを確認する

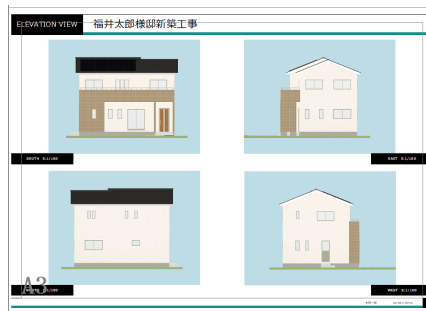
「<前へ」「次へ」をクリック、またはボードの一覧からページを変更してボードを確認しましょう。



ボード名称が表示されます。



【プレゼンボード2】



【プレゼンボード3】

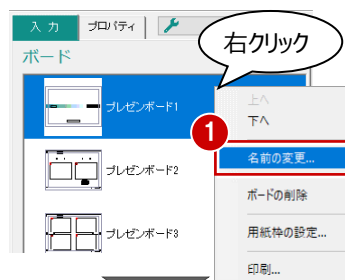


【プレゼンボード4】

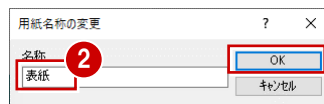
ボードの名称を変更する

ボードの名称を変更しましょう。

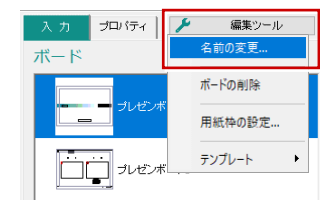
- 1 「プレゼンボード1」のボードで右クリックして、「名前の変更」を選びます。



- 2 ここでは名称を「表紙」に変更して、「OK」をクリックします。

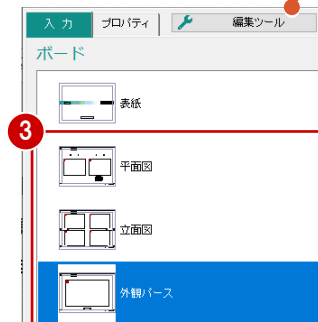
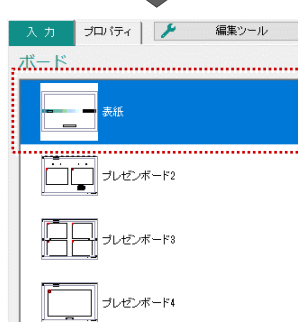


「編集ツール」の「名前の変更」でもボード名を変更できます。



- 3 同様に、残りのボードの名称も変更します。

プレゼンボード2：平面図
 プレゼンボード3：立面図
 プレゼンボード4：外観パース

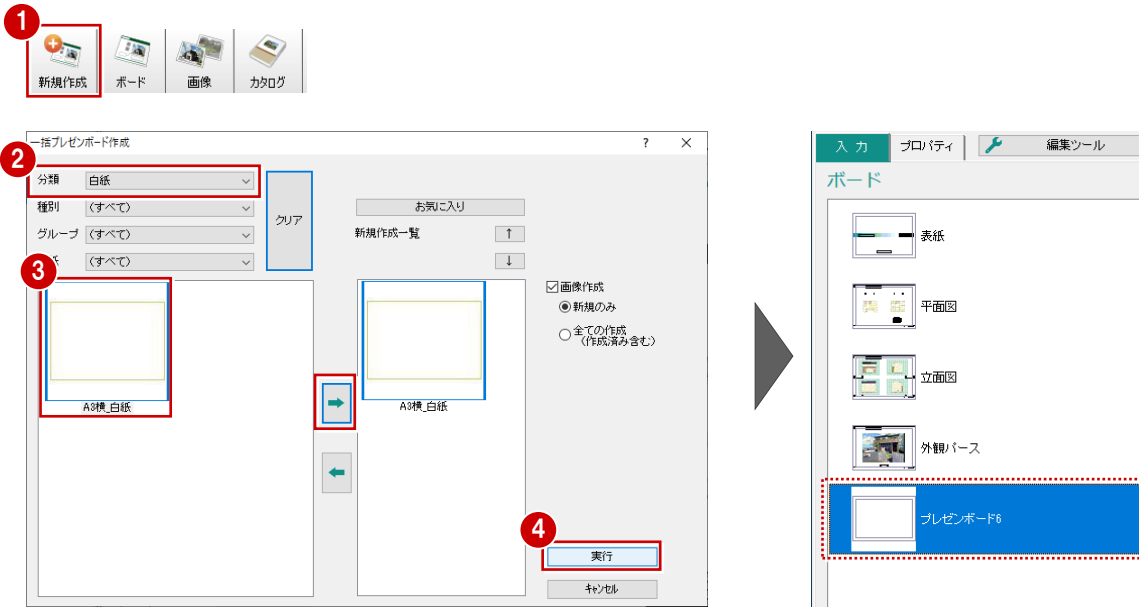


補足+

ボードを追加するには

新たにボードを追加するには、「新規作成」から追加します。

白紙を追加したい場合は、分類を「白紙」にすると白紙のテンプレートが一覧に追加されます。

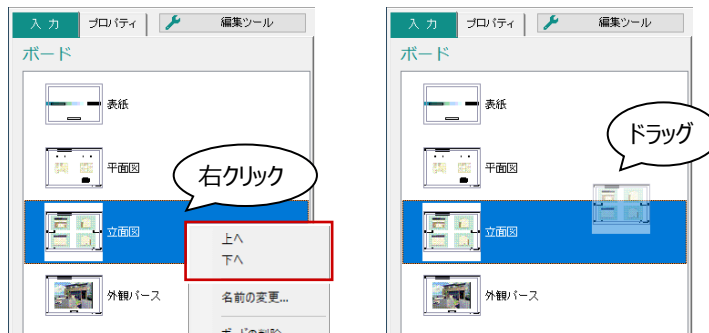


補足+

ボードの並び替え・削除

ボードの並び替え・削除については、操作方法がいくつかあるので操作しやすい方法でおこなってください。

【ボードの並び替え】



【ボードの削除】



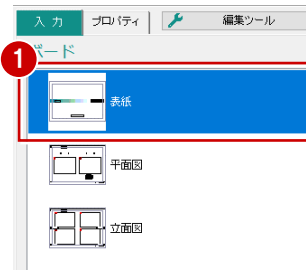
2-4 プレゼン・カタログ画像の確認

「画像管理」に登録されているプレゼン画像、カタログ画像を配置しましょう。

プレゼン画像を配置する

表紙に、P.13 で登録した外観パースの画像を配置してみましょう。

- 1 「表紙」のボードを開きます。
- 2 「画像」の「プレゼン画像」をクリックします。



- 3 「外観」タブの「玄関方向」の画像をクリックして、「OK」をクリックします。

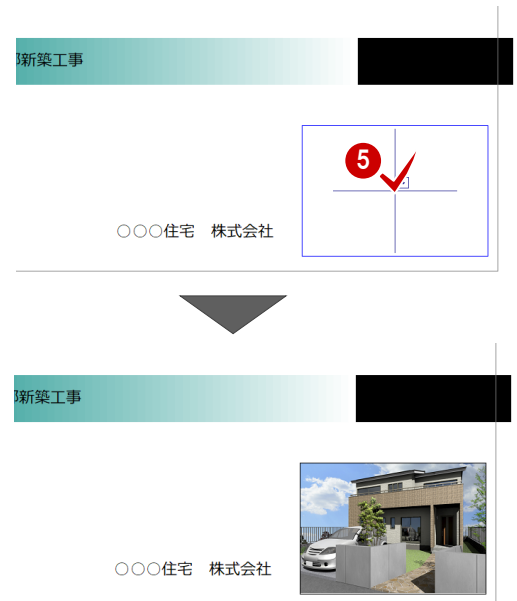
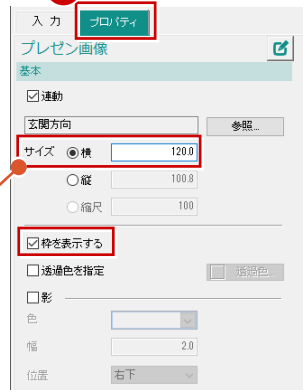


- 4 「プロパティ」タブで画像サイズ、枠の有無などを設定します。

サイズ：横、120
枠を表示する：ON

- 5 画像の配置位置をクリックします。

縦横比固定でサイズを変更します。

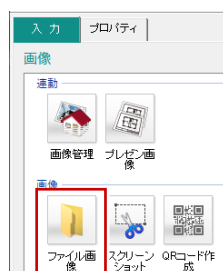


- 6 「キャンセル」をクリックします。



任意の画像ファイルを配置するには

画像ファイル（PNG、BMP、JPEG）を配置するには、「ファイル画像」を使用します。



部品のカタログ画像を配置する

平面図にダイニングテーブルのカタログ画像を配置します。

① 「ボード」をクリックして、「平面図」を開きます。



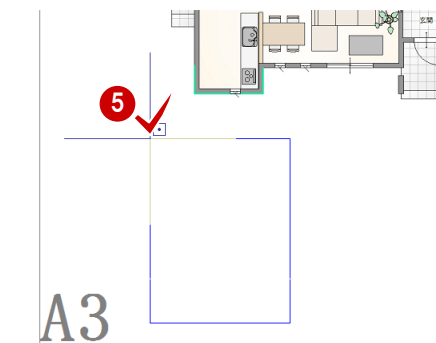
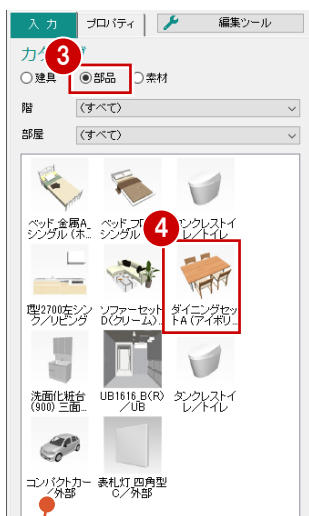
② 「カタログ」をクリックします。



③ 「部品」を ON にします。

④ パネルから配置するカタログ画像を選びます。

⑤ 画像の配置位置をクリックします。



プランに入力されていないカタログ画像

プランに入力されていない建材のカタログ画像は、「建具」「部品」「素材」で配置します。



また、プロパティのサムネイル画像をクリックして、他のカタログ画像に入れ替えることもできます。



プランに入力されている部品が表示されます。



2-5 カタログ画像の編集

カタログ画像のサイズや、カタログ項目の内容、文字の大きさを変更みましょう。

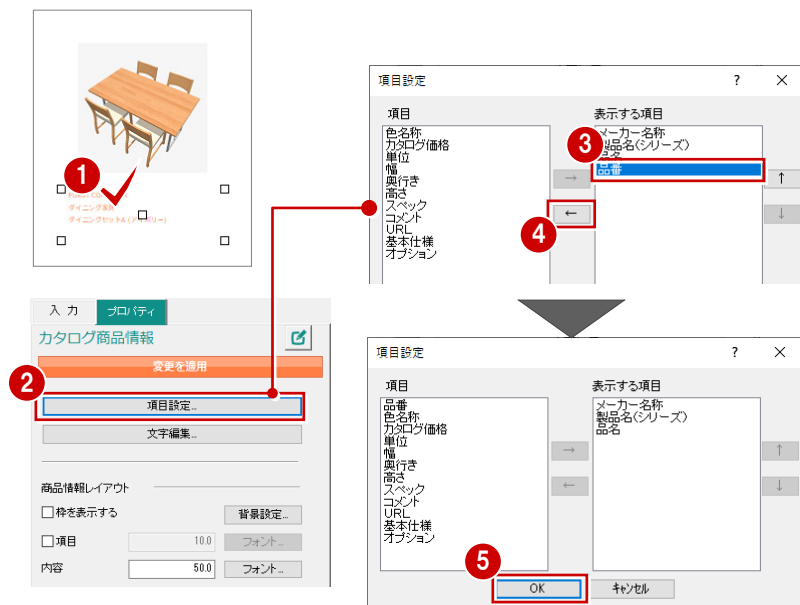
画像サイズを変更する

- 1 「対象データ選択」をクリックします。
- 2 カタログ画像の画像部分をクリックします。
- 3 「プロパティ」の横のサイズを、ここでは「50」から「40」に変更します。
- 4 「変更を適用」をクリックします。



表示する項目を確認する

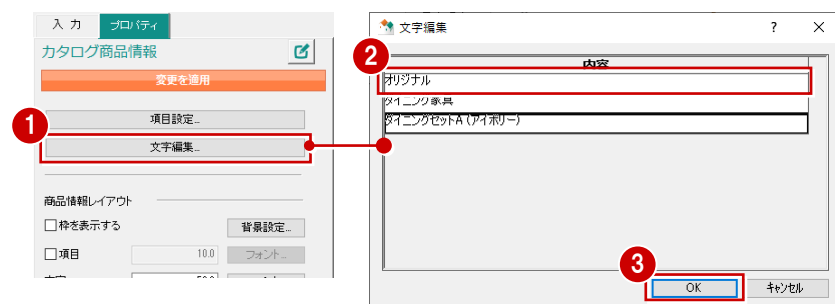
- 1 カタログ画像の項目部分をクリックします。
- 2 プロパティの「項目設定」をクリックします。
- 3 4 ここでは、「品番」を選択して「←」をクリックして、項目に表示しない設定にします。
- 5 「OK」をクリックします。



カタログの項目内容を変更する

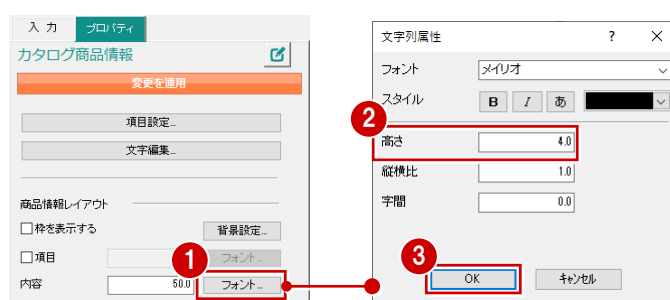
ここでは、メーカー名を変更してみましょう。

- 1 「文字編集」をクリックします。
- 2 内容を変更します。
ここでは「オリジナル」と入力します。
- 3 「OK」をクリックします。



フォントサイズを変更する

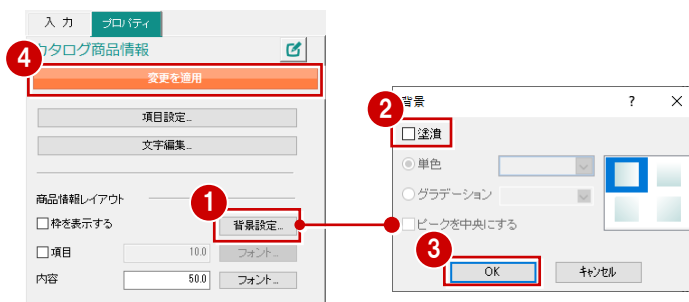
- 1 「フォント」をクリックします。
- 2 「高さ」を「4」に変更します。
- 3 「OK」をクリックします。



背景色を変更する

ここでは、項目の背景色を無しに変更してみましよう。

- ① 「背景設定」をクリックします。
- ② 「塗潰」をOFF にします。
- ③ 「OK」をクリックします。
- ④ 「変更を適用」をクリックします。



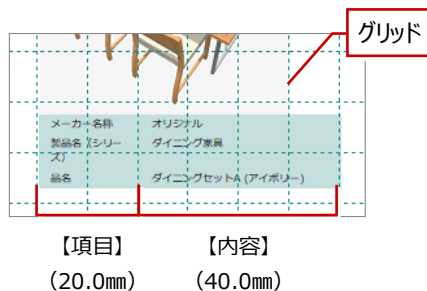
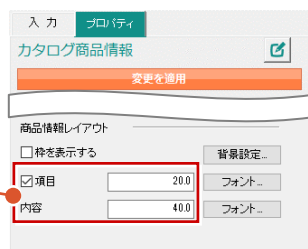
補足

項目・内容を示す幅について

「項目」「内容」では、それぞれ表示する幅（mm）を設定します。文字数が設定した幅を超える場合は自動的に折り返します。

※ グリッドを表示すると、設定されている幅を確認しやすくなります。

項目名を表示する場合は「ON」にします。



補足

グリッド表示とグリッド間隔

設定箇所	
グリッドの表示・非表示	<p>一時的に表示する場合は、画面上で右クリックしてポップアップメニューから「グリッド表示」を選びます。常時表示したい場合は、「初期設定」の「その他」にある「グリッドを表示する」をONにします。</p>
グリッドの間隔	<p>「ボード」の「編集ツール」から「用紙枠の設定」を選びます。「用紙枠設定」ダイアログの「グリッド」タブで間隔を設定します。</p>

2-6 ボードの編集

データを移動したり、カギ線や矢印などの図形を入力してボードを仕上げましょう。

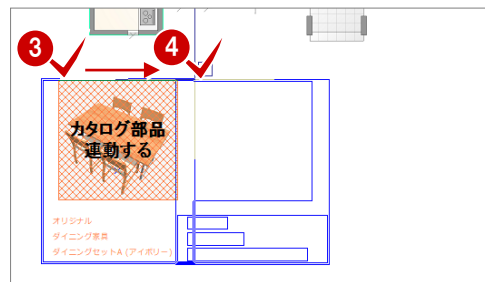
データを移動する

ここでは、カタログ画像を移動してみましょう。

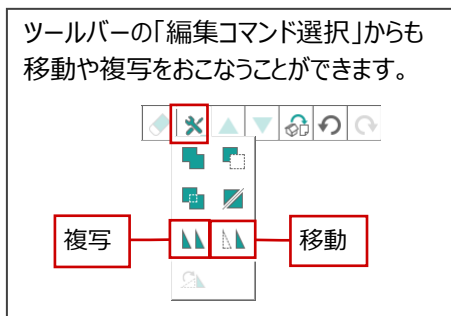
- 1 カタログ画像をクリックします。
- 2 右クリックして、「編集」メニューから「移動」を選びます。



- 3 移動の基準点をクリックします。
- 4 移動先をクリックします。

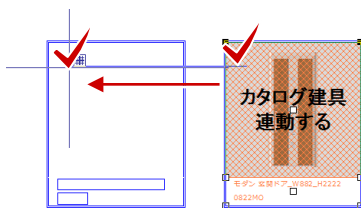


ツールバーの「編集コマンド選択」からも移動や複写をおこなうことができます。

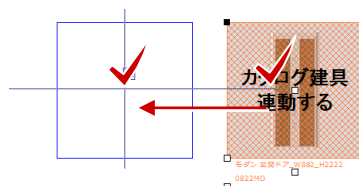


マウス操作でカタログ画像を移動する場合

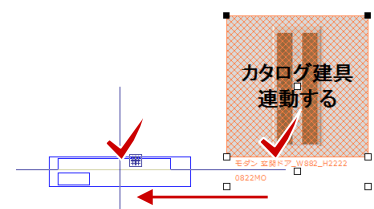
指定する位置によって、移動するデータが変わります。



【任意の位置をドラッグ】
カタログ全体が移動します。



【画像部分の□をドラッグ】
画像だけが移動します。



【項目部分の□をドラッグ】
項目だけが移動します。

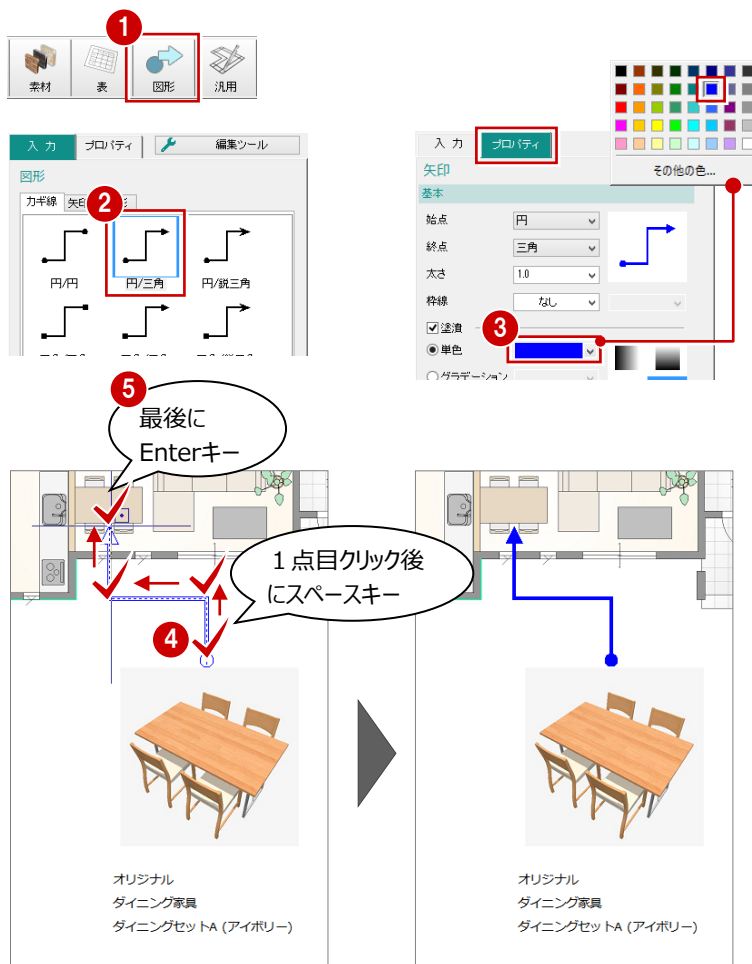
カギ線を入力する

ここでは、ダイニング家具のカタログ画像と平面画像をカギ線で結びましょう。

- 1 「図形」をクリックします。
- 2 ここでは「円/三角」を選びます。
- 3 「プロパティ」タブの「単色」で塗り潰し色を青に変更します。
- 4 カギ線の入力点を順にクリックします。

1 点目をクリックした後にキーボードのスペースキーを押すと、ドラフタ機能が有効になり、水平・垂直方向に固定して次の入力点を指定することができます。

- 5 最後に Enter キーを押します。



表を配置するには

「表」をクリックして、配置する表を選びます。



データを保存する

- 1 共通ツールバーの「上書き保存」を選びます。



2-7 ボードの印刷

作成したプレゼンボードを印刷しましょう。

- 1 共通ツールバーの「プレゼンボードの印刷」をクリックします。
- 2 出力するプリンタや用紙のプロパティを設定します。
- 3 設定が完了したら「OK」をクリックして印刷します。

「処理メニュー」の「印刷」でも開くことができます。

